

「卒都婆小町」

高野山の僧からやって来た二人の僧
(ワキ、ワキツレ)が、津の国阿倍野
の松原に到着します。

ワキ：
高野山の僧



ワキツレ：
従僧

そこへ、以前は絶世の美貌を誇るも
今は百歳の媼となった小野小町
(シテ)が現れます。



面：老女

シテ：
小野小町



往時を知る人達に、老いさらばえた姿
を見られるのを恥し、月の出とともに
都を立つてこまで来た
小町は、疲れから
とある朽木に
腰を掛けます。



その乞食よ、
おことが腰掛けてるのは
卒塔婆だ
すぐにどきなさい



卒塔婆と人と、
そこに何の違いが
ありましょう

僧は、卒塔婆に腰掛ける
小町にとくように促し
ますが、小町は
「仏の誓願は
いかなる
者も救うため、
逆縁であるうと
成仏できる
もの」
と丁寧に
反論し、

感服した僧は
三度礼拝し、

老女の名を
尋ねます。



老女が小野小町であることを
明かすと、僧は驚き、交わり果てた
姿をいたわしく思います。



首にかけた袋には葉や干した豆、
背負う袋の中には粟や干した衣、
肘の籠には白黒のくわい、
蓑は破れ、笠は壊れて
老いた顔も隠せない有様です。



もし、
なにか
ください

そのうち、にわか
小町の様子が変わり、
狂乱状態に陥ります。



小町のところ
へ行こう

小町には、かつて彼女に恋慕した
深草少将の霊が憑いていました。



少将は
「百夜通えば思いを受け入れる」
と言った小町の言葉信じ、
九十九夜まで通いつめますが、
最後の一夜に死んでしまい、
その怨念が、
彼女を狂わせるのでした。



正気に戻った小町は、
このような報いを受けるにつけても
後の世を願うことが人の道である、
仏の道に帰依しようとして
静かに
語るのです。

